



Ⅱ

**安曇野市版
レッドデータブックについて**

2.1 レッドデータブックの概要

(1) レッドデータブックとは

レッドデータブックとは、生物多様性の保全のために、絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト種）の情報をまとめた本のことです。1966年に国際自然保護連合（IUCN）が発行した本の表紙が赤いことから、レッドデータブックと呼ばれるようになりました。

国内では、1991年に当時の環境庁が作成した本が最初です。その後、各都道府県や市町村でも作成されるようになり、長野県では、2002～2005年にかけて「長野県版レッドデータブック」が作成されました。また、県内では、長野市、塩尻市、千曲市、白馬村、阿智村において市町村版のレッドデータブックが作成されています。



他地域のレッドデータブック

(2) 安曇野市版レッドデータブック作成の目的

全国版や長野県版のレッドデータブックは、広い範囲を対象としているため、安曇野市での野生生物がおかれている現状は必ずしも反映できていません。

安曇野市には、常念岳をはじめとした北アルプスの高山帯から、平野部の湧水地にいたる多様な自然環境があり、様々な野生生物が生息・生育しています。

この豊かな自然環境を保全していくための基礎資料として、安曇野市において絶滅のおそれのある野生生物や重要な自然環境について記載した「安曇野市版レッドデータブック」を作成しました。

【本書で取り扱った内容】

- 安曇野市の自然環境や人とのかかわり・変遷を示しました。
- 安曇野市の絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト種）について、特徴や分布、減少要因等を示しました。
- 安曇野市の重要な自然環境について、特徴や主に生息・生育する野生生物等を示しました。
- 安曇野市の自然環境に悪影響を及ぼす可能性がある生物（注意すべき生物）について、特徴や分布、懸念される影響等を示しました。
- 安曇野市の自然環境の現状と課題をまとめ、自然環境を守るための方策を示しました。

2.2 レッドデータブックができるまで

(1) 作成の体制

本書の作成にあたっては、野生生物に詳しい専門家からなる委員会（安曇野市版レッドデータブック作成委員会）を設置しました。さらに委員会内に詳細な内容を検討する部会を設置し、生物情報の収集整理、記載内容（レッドリスト種や重要な自然環境等）の検討や現地調査をおこないました。

この他、多くの協力者から生物情報や写真を提供いただきました。

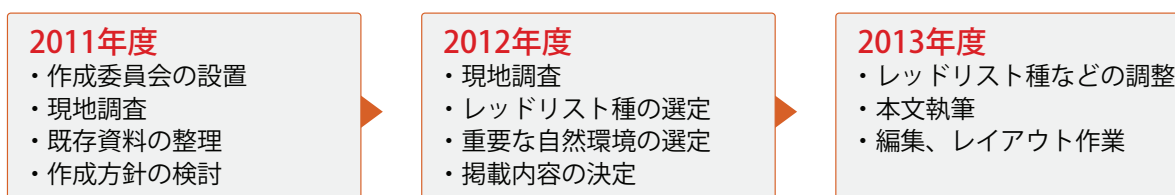
表 2-1 安曇野市版レッドデータブック作成委員会

役職	氏名	所属	担当分類群
委員長	吉田 利男	信州大学 名誉教授	哺乳類、爬虫類、両生類
副委員長	植松 晃岳	野生生物資料情報室	鳥類
	浅川 行雄	安曇野市環境審議会	自然環境全般
委員	飯沼 冬彦	安曇野市環境審議会	植物
	横内 文人	長野県植物研究会	植物
	平沢 伴明	日本甲虫学会	昆虫類
	北野 聡	長野県環境保全研究所	魚類
	東城 幸治	信州大学理学部 准教授	昆虫類、その他無脊椎動物

(2) 作成の流れ

安曇野市版レッドデータブックの作成にあたっては、はじめに安曇野市内の野生生物に関する既存の情報を収集し、不足する情報は現地調査をおこなって補足しました。

収集した情報をもとに、「安曇野市版レッドデータブック作成委員会」において、生物情報の収集整理や記載内容（レッドリスト種や重要な自然環境等）の検討をおこない、安曇野市版レッドデータブックとしてとりまとめました。



2011～2013 年度にかけて、委員会及び部会では、情報の収集方法やレッドリスト種等の選定基準、本書の構成や記載内容等、様々な事項について検討をおこないました。

レッドリスト種については、2013 年 1 月に市民からの意見を募集し、集まった意見をリストに反映しました。

表 2-2 委員会の開催状況

年度	委員会	開催日	検討事項
2011 年度	第 1 回	2011 年 5 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> ・作成の体制、スケジュールの確認 ・情報収集方法の検討 ・レッドデータブック記載内容の検討 ・レッドリスト種等の選定方針の検討
	第 2 回	2011 年 10 月 24 日	
	第 3 回	2012 年 2 月 22 日	
2012 年度	第 4 回	2012 年 5 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集（現地調査等）結果の確認 ・レッドリスト種等の選定・調整 ・レッドデータブック記載内容の確認
	第 5 回	2012 年 10 月 26 日	
	第 6 回	2012 年 12 月 17 日	
	第 7 回	2013 年 3 月 15 日	
2013 年度	第 8 回	2013 年 5 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> ・レッドリスト種等の最終調整・確定 ・レッドデータブック記載内容の確認 ・レッドデータブック内容の承認
	第 9 回	2013 年 9 月 9 日	
	第 10 回	2013 年 12 月 9 日	
	第 11 回	2014 年 3 月 17 日	

注) 部会は、委員会の中に計 13 回開催



レッドデータブック作成委員会の様子
(第 1 回 : 2011 年 5 月 12 日)

(3) 情報収集のための調査

安曇野市内の野生生物や重要な自然環境に関する情報を収集するため、資料調査や現地調査を実施しました。

また、市民参加型の調査である「安曇野市生きもの調査」では希少な生物や外来生物（計32種）を調査対象種として、市民からの情報収集をおこないました。

1) 資料調査

安曇野市内で確認記録のある野生生物について、旧町村誌や書籍、学術報告書等 148 の資料を収集し、安曇野市内で記録のある野生生物の情報を整理しました。

収集した資料一覧は、資料編に示しました。

そのほか、南安曇教育文化会館に所蔵されていた1930年代の南安曇郡誌調査による昆虫類標本や、信州大学に収蔵されていた植物標本等についても情報を整理しました。

2) 現地調査

資料調査の結果、情報が不足していた高山帯に生息・生育する動物や植物、山麓部・平野部や河川・水辺に生息・生育する植物や昆虫類等を対象として現地調査をおこないました。調査項目及び調査方法は、表2-3及び表2-4に示しました。

国立公園内や国有林内での調査は、環境省や林野庁の許可を得て実施しました。

表 2-3 現地調査項目一覧(1)

調査環境	調査項目	調査範囲	調査実施時期		
			2011年度	2012年度	2013年度
亜高山帯から高山帯	植物 動物	燕岳から常念乗越	-	7月	-
		常念乗越から大滝山	8月	8月	-
	動物 (センサーカメラ)	燕岳、大天井岳、常念乗越、蝶ヶ岳	-	6～10月	-
山地帯	植物	岩州公園	6月、8月	9月	-
		大峠	-	6月	-
		中房温泉	-	-	6月
		中房川流域	-	-	8～9月
		烏川流域	-	-	9月
	水生動物	烏川流域	-	-	9月
	陸産貝類	明科地域	-	-	8月

注) 「安曇野市生きもの調査」は、「安曇野市環境基本計画」の具体的な取り組みを示した「安曇野市環境行動計画」の一環として、2012年度におこなわれました。

表 2-3 現地調査項目一覧(2)

調査環境	調査項目	調査範囲	調査実施時期		
			2011年度	2012年度	2013年度
山麓部 ・平野部	植物	市内各地	-	5～9月	6～7月
河川 ・水辺	植物	市内各地	6月	5～9月	-
	昆虫類	穂高地域	-	5月、9月	-

表 2-4 現地調査方法

調査項目	調査方法
植物 (全環境)	登山道や歩道を歩きながら、生育する植物を記録しました。
動物 (亜高山帯から 高山帯)	登山道や歩道を歩きながら、個体の目撃、鳴き声、足跡や糞、死体等により、生息する動物を記録しました。 昆虫類は、捕虫網による採集もしました。 採集した昆虫類は、室内で種名を調べました。
動物 (センサーカメラ)	獣道沿いに赤外線センサーを搭載した無人撮影カメラを設置し、通過した動物を撮影しました。
昆虫類 (河川・水辺)	捕虫網や餌で昆虫を誘引するトラップにより、昆虫類を採集しました。 採集した昆虫類は、室内で種名を調べました。
陸産貝類 (山地帯)	森林内の地表面にある落葉をかいて、落葉の裏等に潜む陸産貝類を採集しました。 採集した陸産貝類は、室内で種名を調べました。



亜高山帯から高山帯の調査(2011年度)



湧水地の調査(2012年度)



設置したセンサーカメラ(2012年度)



センサーカメラで撮影したオコジョ

3) 市民からの情報収集

2012年度に実施した「安曇野市生きもの調査」において、レッドリスト種の候補となる希少な生物や注意すべき生物の候補となる外来生物等について、市民からの情報を収集しました。

収集した情報は、レッドリスト種や注意すべき生物の選定にあたって参考としました。

また、2011～2013年度の秋季に開催された「安曇野環境フェア」において、レッドデータブックに関する展示と作成委員による解説をおこないました。



生きもの調査パンフレット



安曇野環境フェア（2013年度）での展示

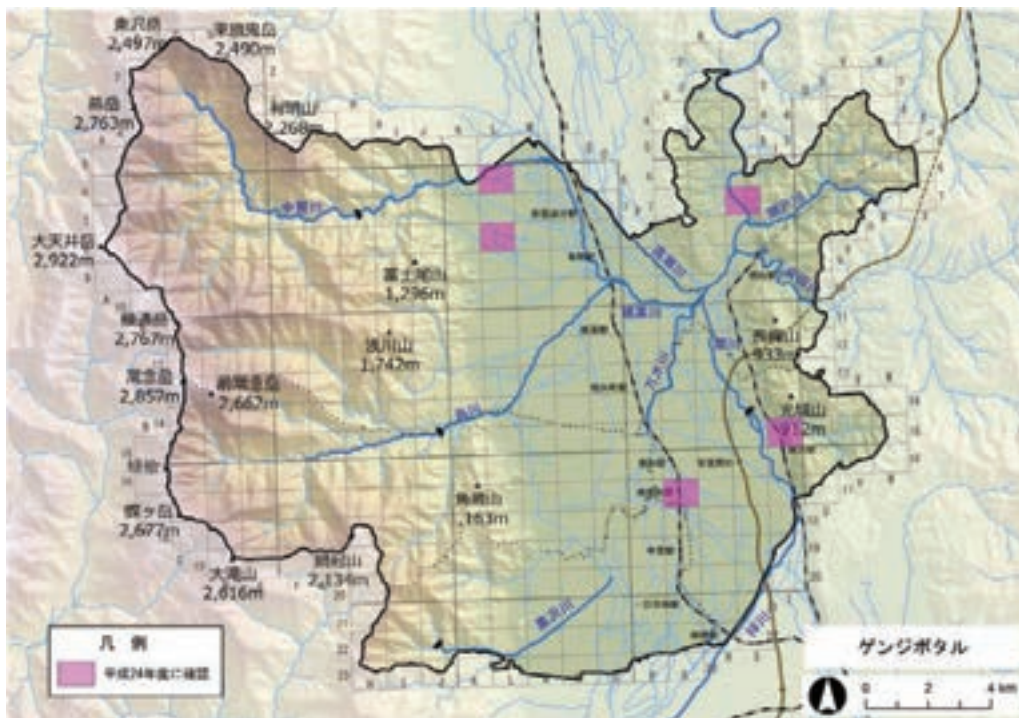


図 2-1 2012年度 安曇野市生きもの調査結果（ゲンジボタルの例）

2.3 本書で対象とした生物や環境

安曇野市版レッドデータブックでは、「安曇野市に本来生息・生育する希少な種をはじめとした野生生物を守る」視点で以下に示す野生生物や重要な自然環境を取り上げました。

野生生物の種名や種の並びは、鳥類以外は環境省の生物目録を基本とし、一部の種については最新の知見を反映しました。鳥類については、日本鳥学会編（2012）鳥類目録改訂第7版に準拠して整理しました。

(1) 安曇野市において絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト種）

安曇野市に生息・生育する野生生物の中で、絶滅のおそれがある、あるいは個体数が減少傾向にある種を取り上げました。

種の選定にあたっては、植物は維管束植物（シダ植物、種子植物）、動物は脊椎動物と無脊椎動物を対象としました。

表 2-5 安曇野市版レッドデータブックで対象とした生物

区分		分類群
植物		・維管束植物（シダ植物、種子植物）
動物	脊椎動物	・哺乳類 ・鳥類 ・爬虫類 ・両生類 ・魚類
	無脊椎動物	・昆虫類 ・その他無脊椎動物（クモ類、貝類等）

(2) 安曇野市の重要な自然環境

安曇野市の中で、野生生物の生息・生育場所として重要な自然環境のうち代表的な場所を取り上げました。

また、安曇野市にみられる自然環境の概要と、様々な自然環境に特徴的な野生生物（指標種）についても整理しました。

(3) 注意すべき生物

安曇野市の自然環境に悪影響を及ぼす可能性がある生物の中で、特に影響が大きいと考えられる種を取り上げました。

種の選定にあたっては、レッドリスト種と同様に、植物は維管束植物（シダ植物、種子植物）、動物は脊椎動物と無脊椎動物を対象としました。